

赤十字NEWS

July 2011 Vol.854
http://www.jrc.or.jp



編集・発行 / 日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

40分で助かる命がある！ 「LOVE in Action」の熱気を 武道館から全国へ



若い世代へ献血協力を呼びかける「LOVE in Action」プロジェクト。年間を通じたキャンペーンの集大成となる「LOVE in Action Meeting (LIVE)」が世界献血者デーの6月14日と翌15日の2日間、日本武道館とKスタ宮城（14日のみ）で開催されました。倉木麻衣さん、加藤ミリヤさん、AKB48、ゆずら人気若手アーティストが出演。会場を埋めた約2万人の来場者に献血への参加を呼びかけました。

LOVE in Action Meeting (LIVE) ではたちの献血キャンペーンソング「Hey和」などを熱唱したゆず：6月15日の日本武道館

CONTENTS

2	TOPICS	3	TOPICS	4 5	SPECIAL	6 7	AREA NEWS	8	WORLD
	血漿分画事業の統合へ 検討開始 菅原一剛写真展 被災地の高齢者施設へ介護用ベッド 表参道から被災地へメッセージ		放射線を正しく理解しよう 日赤長崎原爆病院・朝長院長に聞く 常任理事会・理事会開催報告 第77回代議員会審議結果公告		東日本大震災 義援金を一刻も早く お届けするために		大阪・福島・群馬・和歌山 福岡・広島・兵庫・全国 日赤看護大学 公開講座のお知らせ Voice & プレゼント		スリランカ 北部紛争避難民支援事業 ハイチ コレラ治療支援 デンマーク皇太子が本社を訪問

クロスアップひと



フリーキャスター
小林麻耶さん

感じてほしい いのちのつながり

日本武道館で6月14、15日に行われた「LOVE in Action Meeting(LIVE)」。初日14日の司会を務め、集まった8000人以上の観客の前に「今日をきっかけに献血に参加してほしいです」と呼びかけました。

献血は高校時代に体験。「母が輸血でいのちを救われたことがあって、献血の大切さは以前から知っていました。少しドキドキでしたが、これで誰かが助かるかもしれないと充実感を感じました」と振り返ります。

東日本大震災では、自分に何ができるだろうかと悩んだこともあったそうです。そうした中、「微力でも力になりたい」とブログを通じて被災者との交流を重ねてきました。

「つらい胸のうちを打ち明けてくださる方がたくさんいました。でも、私の返事で『元気が出ました』と言っていただける。直接会うことはできなくても、人と人はつながることができる。献血と同じですね。そのことの大切さをブログを通じて感じています」

PROFILE

'79年7月12日生まれ、青山学院大学卒業。TBSを経て'09年4月よりフリーに。現在、「がっちりアカデミー」「くらべるくらべらー」(TBS)、「小林麻耶の本に会いたい」(BSジャパン)等、様々な番組に出演中。セント・フォース所属。



北海道・千歳市にある日本赤十字社血漿分画センターは血漿分画製剤をつくる国内唯一の赤十字施設

血漿分画事業の 統合へ検討開始

日本赤十字社と 田辺三菱製薬株式会社

世界的な血液製剤の供給不足が生じた際に国民の生命を守るという観点から、血液製剤の国内自給が大きな課題となつていきます。

設立に向けて検討が始まった新法人は、スケールメリットを生かした効率的な生産体制を構築することで、血漿分画製剤の国内自給達成をめざしていくもの。営利を目的としない法人とするのも両社の間で確認されています。

血漿分画製剤の国内必要原料を一括処理できる能力を持つ大規模アルコール分画工場

スケールメリット 生かした 安定供給を

血漿分画製剤の国内自給達成に向けて、日本赤十字社は田辺三菱製薬株式会社との間で、日赤血漿分画事業部門と株式会社ベネシス(血漿分画製剤の製造販売を行う田辺三菱製薬の完全子会社)とを来年4月1日をめどに統合し、新法人設立のための検討を開始することと合意しました。6月17日に都内で開かれた日赤第77回代議員会で承認されたものです。



国内の献血からつくられている血漿分画製剤

菅原一剛 写真展 「あたらしいみち DUST MY BROOM PROJECT」

菅原一剛氏は、ケニアやパングラデシュなど日本赤十字社の被災地支援活動取材してきたフォトグラファー。写真展には、被災地で生きる人々の表情や素顔の生活などをとらえた作品が出品されています。人々の明るさこそが、困難を抱えた今日を照らし、明日への道を指し示すことを、写真は私たちに訴えかけます。



© Ichigo Sugawara

【開催概要】

会期 7月22日(金)～8月4日(木) 日曜休館
開館時間 10:30～18:00 最終日は15:00まで
会場 〒163-0401 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル1階
エプソンイメージングギャラリーエプサイト
TEL03-3345-9881 入場無料

を新設するなど、国内の血液製剤製造事業の中核的役割を担っていく予定です。

国内の血液製剤はすべて国内自給が達成されています。最も使用量が多いアルブミン製剤の自給率は58.7%。国内で製造されていない血漿

分画製剤もあります。日赤を含む国内各メーカーの生産規模が海外メーカーに比べて小さく、製造コストを含めて事業効率化に限界があることなどが原因です。

スケールメリットによる生産・供給段階でのコスト低減を図っていく事業統合は、国内自給実現への一歩となることと期待されています。

平成15年7月に施行された「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(血液法)は国内自給と安定供給を明記。昨年は世界保健機関(WHO)が「国内自給達成」の勧告を出すなど国際的な要請にもなっています。

輸血用血液製剤はすべて国内献血でまかなわれていますが、血漿分画製剤については国内自給が達成されていません。100種類を超えるタンパク質が含まれています。それらの中から有用なタンパク質を取り出して血漿分画製剤は作られます。アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤、アンチトロンビン製剤など多くの種類があります。

「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(血液法)は国内自給と安定供給を明記。昨年は世界保健機関(WHO)が「国内自給達成」の勧告を出すなど国際的な要請にもなっています。

輸血用血液製剤はすべて国内献血でまかなわれていますが、血漿分画製剤については国内自給が達成されていません。100種類を超えるタンパク質が含まれています。それらの中から有用なタンパク質を取り出して血漿分画製剤は作られます。アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤、アンチトロンビン製剤など多くの種類があります。

解説

国内自給は国際的要請

血漿分画製剤

血液製剤の一つで、血液に含まれる「血漿」を材料にした医薬品です。血漿の中には100種類を超えるタンパク質が含まれています。それらの中から有用なタンパク質を取り出して血漿分画製剤は作られます。アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤、血液凝固因子製剤、アンチトロンビン製剤など多くの種類があります。

東日本大震災復興支援 原宿・表参道から 被災地励ます メッセージ



メッセージの一つ一つが被災した方々の心を熱くします

東京・原宿の表参道で書かれた被災地向けのメッセージボードが、このほど福島市のあづま総合体育館や宮城県石巻市赤十字病院に掲示され、避難している人や病院を訪れた被災者らを励ました。

メッセージボードは、表参道で行われた義援金募集イベント(5月7～8日)の際に参加者が書いた激励メッセージを集めたもの。併せて、海外から寄せられたメッセージや千羽鶴なども展示されました。

被災者の一人は「メッセージを見ると頑張らなければと思えます。千羽鶴は時間をかけて作っていただいたことが伝わって、うれしい」と話していました。

石巻赤十字病院ではしばらくの間、メッセージボードの掲示を続ける予定です。



特別養護老人ホーム「恵潮苑」には10台のベッドが贈られました

海外救援金支援事業 被災県の高齢者施設へ 「介護用ベッド」

高齢者(福祉)施設が被災。施設を利用していた高齢者らは、被災を免れた他施設が受け入れています。しかし、定員を超えた受け入れを余儀なくされ、ベッドなど必要な備品が不足する施設も少なくありません。

ベッド寄贈事業は、施設のこうした環境の改善に向けたもの。6月13日に寄贈式が行われた特別養護老人ホーム「恵潮苑」を運営する、宮城県気仙沼市の社会福祉法人「なかつうみ会」の吉田寛事務局長は「震災直後はホームなどに直接マットを敷いて介護していました。今回の寄贈は大変ありがたい」と海を越えて届いた寄付へ感謝を述べられました。

日本赤十字社は、世界各国の赤十字社を通じて寄せられた「海外救援金」を財源に、岩手、宮城、福島にある高齢者施設や福祉施設に「介護用ベッド」を寄贈する事業を進めています。最初の寄贈として6月28日までに、宮城県内の64施設に374台を寄贈しました。

放射能を正しく理解しよう

日赤長崎原爆病院・朝長万左男院長に聞く

福島第一原子力発電所の事故で大量に放出された放射性物質。首都圏を含む広範囲な地域で放射線検出が続くことで、住民の間に不安が広がっています。いま国民がさらされているリスクの本当のところは？ 長年にわたり被爆者医療に携わってきた日本赤十字社長崎原爆病院の朝長万左男院長に話を聞きました。



がん発症

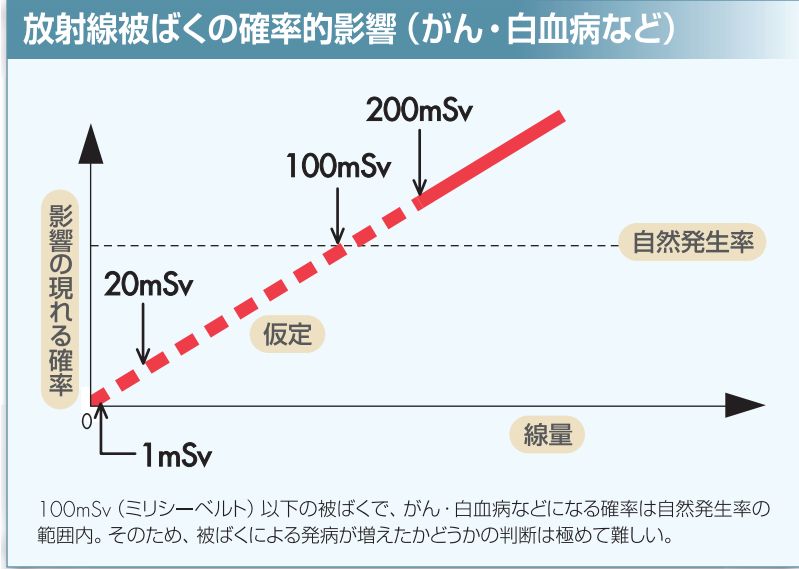
リスクは？

放射線が人体に与える影響について教えてください。

生物が放射線を浴びると細胞が傷つけられますが、遺伝子には自己修復の機能があるので、自然に元へ戻る力があるのです。ところが、被ばく量が多いとごくまれに修復ミスが発生してしまいます。その結果、遺伝子が不安定化してしまい、がん発症へと至ることがあります。

どのくらいの放射線を浴びると危険なのですか？

がん発症が増えることを確認できるのは、100ミリシーベルト



あつても、それは0・5%よりずっと低い数値であることは確かです。しかし、影響はあると考えて防御策をとることが国際的コンセンサスとなっています。

現在の放射線レベルでは心配ないということですか？

1ベルト(mSv)付近からです。とはいえ、そこでのがんリスクの増加率はわずか0・5%。年間積算20ミリシーベルト(計画的避難区域での値)での影響の有無は学者によって意見が分かれますが、仮に

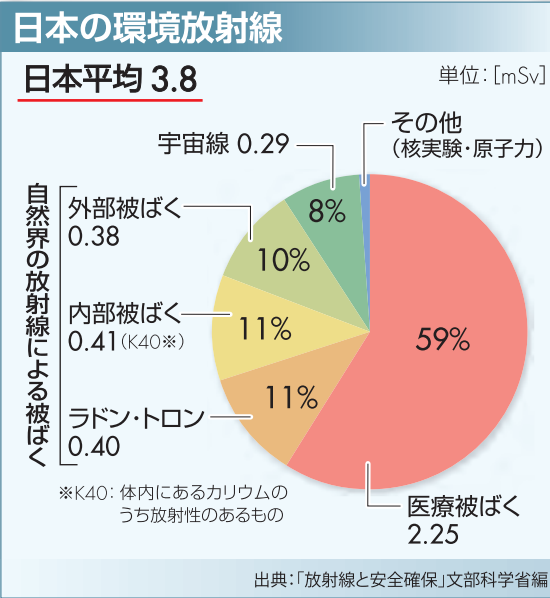
量も浴びています。避難区域外での放射線量は年間1ミリシーベルト以下のところが多いので、それが加わった程度では健康への影響が出ることはありません。

スポット的に高い放射線量が測定される場所もあると聞いていますが？

雨水が溜まる場所などの放射線量は高くなりますが、そこに24時間居つづける人はいないわけです。子どもたちの健康に一番影響の大きな放射性ヨウ素(ガス状の放射性物質の一つ)は半減期が短く現在ほとんど消えています。土壌に堆積している放射性物質はセシウムですが、これが体内に沈着することで

用語説明

- 放射線** 物質を突き抜け、原子核の電子を弾き飛ばす力を持った電磁波や粒子線。放射線が人体を通過する際に、人間が受ける影響の度合いの単位が「シーベルト (Sv)」
- 放射能** 放射線を出すことができる能力。強さは「ベクレル (Bq)」という単位で表す
- 放射性物質** 放射能を持っている物質
- 半減期** 出される放射線が半分になるのに必要な時間。放射性物質ごとに異なる



福島県産の野菜は危ない？

野菜などからも放射線が検出されていて、体内被ばくも心配ですが…

食品には微量の放射性物質がもともと含まれています。事故前から私たちはそれを食べてきました。でも、何の問題もなかったわけです。したがって、「放射線レベルがゼロではないから危険」というのは間違い。食品衛生法の暫定規制値は、余裕を持って設定されています。福島県産の野菜は危ない、などの風評には惑わされないようにしてほしいですね。

風評被害という点では、放射線が人から感染するといった誤解に基づくものもあるようです。

体の表面や衣服にべったり放射性物質がついていれば別ですが、福島からの避難者の方はそんな状況にはありません。彼らからの被ばくを周りが心配するのはまさに風評。正しい知識と情報を持つことが、不必要な不安や風評に惑わされないために大切です。再度、原発が爆発するような事態になれば別ですが、現状は検出される放射性物質はずっと下がってきています。そこを踏まえて、ぜひ落ち着いた行動をお願いしたいと思います。

食物中のカリウム40の放射エネルギー (ベクレル/kg)

米 30	食パン 30	魚 100	牛肉 100	牛乳 50
ドライミルク 200	ホウレン草 200	干しいたけ 700	干こんぶ 2000	生わかめ 200
お茶 600	ポテトチップ 400	清酒 1	ビール 10	ワイン 30

出典:「放射線の影響がわかる本」(財)放射線影響協会編(科学技術庁「生活環境放射線」ほかより)

常任理事会開催報告

平成23年6月16日、本社において平成23年度第3回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項

1 理事会及び第77回代議員会に付議する事項について(役員選出)

審議の結果、理事会及び第77回代議員会に付議する事項については、原案のとおり本年6月17日開催の理事会及び代議員会に付議することについて了承されました。また、平成22年度事業報告及び収支決算の概要、東日本大震災国内義援金の対応、さいたま赤十字病院内の施設整備計画、特別養護老人ホーム錦江園改築工事計画、日本赤十字社の血漿分画事業について、それぞれ報告しました。

理事会開催報告

平成23年6月17日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において平成23年度2回目(文書審議1回を含む。)の理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項

1 第77回代議員会に付議する事項について(役員選出)

2 規則の改正について
(日本赤十字社社会福祉施設規則等、日本赤十字社社会福祉施設特別会計規則の一部改正)
審議の結果、いずれも原案のとおり議決されました。また、常任理事会の理事の互選が行われ、小林正則氏が選出されました。

また、日本赤十字社の血漿分画事業、平成22年度事業報告及び収支決算の概要、東日本大震災にかかる海外救済金を財源とする平成23年度一般会計歳入歳出予算の補正について、それぞれ報告しました。

第77回代議員会審議結果報告

平成23年6月17日、新霞が関ビル「全社協 灘尾ホール」において開催した第77回代議員会における審議結果は左記のとおりです。

日本赤十字社

記

第1号議案 役員選出について

理事 3名及び監事1名が次のとおり選出されました。

- 理事 小林 正則 山下 直家
- 小林 洋子
- 監事 庄山 悦彦

人々の信頼に応えるために全力

日本赤十字社総務局組織推進部長 服部亮市

震災以来多くの人々が、私たち日本赤十字社や中央共同募金会など各義援金受付団体を信頼して、善意の寄付を託してくださっています。お預かりした私たちは、義援金全額が迅速かつ公平に被災者の手元に渡るよう、きちんと被災自治体に届けていく、その責任と役割を担っています。

しかし、従来の災害と異なり、東日本大震災ではまず被災各都道府県への配分対象と基準額を決める必要がありました。そこで日赤として国に申し入れて、義援金配分割合決定委員会を立ち上げてもらい、そこでの決定に基づき送金する手順を踏まざるを得ませんでした。また、被災で行政機能の低下が余儀なくされた結果、自治体によっては被災者への配分が滞る事態も起きています。

私たちとしても、配分が大きく遅れたことは大きな問題だと思っています。その対策として、6月6日の第2回義援金配分割合決定委員会では、配分の迅速化を推進するために、義援金の一部を残して被災状況に応じて各都道府県に按分のうえ早急に送金する一方、各都道府県においては全国自治体からの応援職員を活用するなど、市町村窓口の義援金配分業務を加速化させることを確認しました。また、日赤の本社・支部職員が厚労省や被災県の職員とチームを組み、市町村を訪問して状況把握などに努める取り組みも進めてきたところです。

すでに第二次の配分が行われていますが、現在も日々10億円近い義援金が寄せられています。これについても、第二次配分の追加としてなるべく早期に自治体へ送金していく考えです。すべての被災者に一日でも早く義援金が届き、生活再建にお役立ていただけることを心より願うとともに、日本赤十字社としても最大限の努力を続けてまいります。



個人・法人の皆さま 一人ひとりの善意が込められた義援金



町内会や自治会、学校、職場、街頭、インターネットなど募金活動はあらゆる場所で

Q **たくさんの方から義援金が寄せられているようですね。**

A 数えきれない皆さまからの善意が日々寄せられています。日赤に寄せられたものだけで2533億円(6月23日現在)。阪神淡路大震災を上回り過去最大となりました。震災からの一日も早い復興に向け、今後も引き続き義援金を受け付けています。

義援金の始まり

明治21年7月、磐梯山(福島県)の噴火により大勢の死傷者が出ました。この時、東京の有志から日赤社長が預かった義援金50円(現在の貨幣価値でおよそ50万~100万円)を負傷者に分配したのが最初です。

東日本大震災 総額2874億円の義援金 たくさんの善意をありがとうございます 義援金を一刻も早くお届けするために

「義援金」の疑問に答えます



東日本大震災の被災者支援として日本赤十字社や中央共同募金会などへ託された義援金は、6月23日現在で2874億円(※)余り。一次、二次配分を合わせて2311億円(※)が6月23日までに被災都道府県に配分されました。しかし、被災者への配分は全体として遅れ気味。一日も早く義援金を手元に届けることが急務です。日赤は被災自治体とも協力し、こうした事態の改善に全力を挙げています。

※最新の受付および送金状況は日赤ホームページ(www.jrc.or.jp)をご覧ください。

義援金受付団体(日本赤十字社・中央共同募金会など) 皆さまの善意は責任を持って預かります

Q **義援金は日赤だけで受け付けているのですか?**

A 義援金受付団体としては、日赤のほか中央共同募金会、NHK及びNHK厚生事業団があります。いずれの団体が受け付けた義援金も、最終的には義援金配分委員会を通じて、被災者へ届けられます。また、政府や各被災自治体も義援金を受け付けています。

Q **日赤に寄せられた義援金以外の用途に使われることはありませんか?**

A ありません。被災都道府県の義援金配分委員会を通じて、全額が被災者の方々へ届けられます。一方、日赤が行う被災地への救護班の派遣や、毛布などの救護物資は、赤十字活動に賛同する方々(会員)から年間一口500円以上(※)の会費(社費)や寄付金などですべてまかなわれており、義援金は1円も使われません。
※一部の地域では金額が異なります

義援金の流れ



義援金配分委員会 各都道府県の「地域防災計画」に基づいて設置

Q **義援金の配分額などは誰が決められていますか?**

A 被災都道府県ごとに設置される義援金配分委員会が決定します。委員会は、大災害で義援金が集められた際に作られる組織。自治体や日赤など義援金受付団体、マスコミなどで構成されます。迅速かつ公平な義援金支給のために、配分額や方法、対象者などを決めていきます。



東日本大震災では義援金を行政経費などに充てないことを確認

義援金総額と配分基準

義援金の配分状況(6月23日現在)

義援金総額 (日本赤十字社・中央共同募金会 合計)	2874億円
被災都道府県送金済額	2311億円
被災市町村	786億円
被災者	532億円

配分基準	一次配分	二次配分
死者・行方不明者の遺族・家族	35万円	56万円
家屋が全壊・全焼・流失した世帯	35万円	56万円
家屋が半壊・半焼した世帯	18万円	28万円
原発事故による避難世帯	35万円	56万円

一次配分の金額は、義援金を都道府県に案分するための基準額として義援金配分割合決定委員会(※)より出されたもの。二次配分は、被災状況を指数化した上で、各都道府県に義援金を按分。配分先を一次配分同様の対象被災者で割った場合が上記表の金額となる。実際の配分対象者や金額は、直接自治体へ寄せられた義援金分も含めて、各県の配分委員会が決められる。

※被害が複数の都道府県にまたがった今回の震災では、各自治体への義援金配分を迅速・公平に実施するため、厚労省や被災都道府県、日赤などで構成する義援金配分割合決定委員会が作られました。

被災者の皆さま 被災地に笑顔と活気が戻る日を信じて

Q **義援金だけで被災者の生活再建ができますか?**

A 被災者の方へは、国による災害弔慰金や災害見舞金の支給、自宅が被害を受けた方への支援金制度、災害援護資金の貸し付けなども用意されています。生活再建に向けては、義援金だけではなく、行政のさまざまな支援制度の有効活用が期待されています。



仮設住宅の前で「義援金50万円が振り込まれました。(海外赤十字社からの救護金を財源とする)家電セットもいただいで大変感謝しています」と話す熊谷さんご夫婦

福島原発事故の避難者へも義援金

津波の被害に遭わなくても福島第一原発事故により避難を余儀なくされ、自宅に住むことのできなくなった被災者に対しても、義援金が支給されています。

被災市町村 一日も早く被災者の手に

Q **まだ義援金が届けられていない被災者も大勢いますか?**

A 被災者への義援金配分は市町村の業務です。しかし今回の震災では、庁舎が流されたり、職員の多くが亡くなるなど甚大な被害を被った市町村もあります。そのため、義援金申請に必要な「[り災証明]」の発行など事務処理に遅れが発生。また避難先が全国に広がったため、義援金の申請ができない被災者も大勢いました。こうしたさまざまな困難が支給の遅れを招いています。

Q **一日も早い配分にどんな対策が取られていますか?**



一部崩壊したままの小学校で義援金の受付業務が行われている

Aすでに全国の自治体から被災自治体へ職員が派遣されるなど行政機能回復への支援が行われています。日赤からも職員を被災地へ派遣し、義援金配分の遅れの原因調査を行っています。

全国の自治体からの応援で整った 義援金支給の窓口業務

宮城県東京事務所 所長 菅原久吉さん

義援金受付団体を通じて宮城県に配分された義援金は977億円。宮城県に直接届けられた分も加えると1000億円を超えました。本当にありがたいと思っています。

多くの皆さまの善意に応え、できるだけ早く被災者の皆さまに支給できるよう、県としても市町村と連携しながら努力をしてきたところです。しかし、被災市町村の行政機能マヒなどにより、義援金支給に遅れが発生してしまいました。宮城県では全市町村が被災しましたが、犠牲になった職員も少なくありません。規模の小さい市町村ではマンパワー不足に陥り、なすべき仕事に優先順位をつけざるを得ませんでした。被災状況の把握、避難所の被災者支援や仮設住宅の建設、水道などインフラ復旧への対応…。義援金支給にまで人手を割けなかったのです。

全国の自治体から職員派遣の応援をいただき、県内全市町村での窓口業務が再開できたのは5月中旬。そこからようやく義援金支給業務が本格化してきました。第二次配分ですらに支給が加速化されますが、申請手続きを簡素化するなどの工夫をあわせて行うことで、より迅速な支給に取り組んでいく所存です。





車いすに乗せられた体調不良者へ声をかける医師

東日本大震災 福島原発事故 住民一時帰宅を救護班がサポート



福島 2011.5.22

福島第一原子力発電所の爆発事故による周辺住民の避難が長期化する中、原発から半径20キロメートルの警戒区域の住民の一時帰宅が行われています。この一時帰宅に際し、福島県支部では5月22日から救護班を派遣し、住民の体調不良などに備えた救護活動を展開中です。

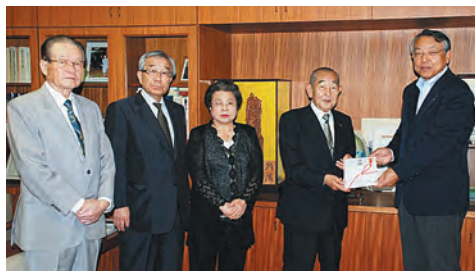
この救護活動は、政府の原子力災害現地対策本部からの要請に基づくものです。一時帰宅を終えた住民へのスクリーニング（汚染の検査）を行う会場は、汚染防止のためにビニールシートで養生。住民は防護服を着用したままで検査を受けるといふものものしい雰囲気の中での救護活動となっています。救護班員の一人は、「福島県で起こった原発事故。地元の日赤病院として、少しでも住民の皆さんのお役に立てればと思います」と決意を語っています。

6月9日は、双葉町と大熊町の町民253人の一時帰宅が行われ、救護班は中継基地（会場）となる田村市古道体育館で傷病者の発生に備えました。この日は体調不良や指をけがした人など3人の手当てを行いました。いずれの方も軽症。日赤では、この災害に対し赤十字として何が出来るかを考え、今後も住民支援を継続していきます。

和歌山県 日赤有功会が 活動資金250万円



和歌山 2011.5.31



寄付目録を手渡す中根会長（右から2人目）

和歌山県日赤有功会よりこのたび、赤十字活動支援として250万円の資金協力が県支部へ寄せられました。同有功会は、毎年50万円の社資協力を寄せていますが、東日本大震災に伴う救護活動などに活用して欲しいと今回は増額を決定。5月31日の有功会総会であいさつした中根富蔵会長は「こんな時こそわれわれ有功会が赤十字を支援しましょう」と決意を表明しました。

増額分の寄付は、東南海・南海地震の発生などに備えた積立金の一部を取り崩して充てたもの。資金協力と併せて、災害対策用として42型液晶テレビも同有功会から寄贈されました。

すずらんが運ぶ幸福 ANAグループから プレゼント



全国 2011.6.6



押し花のしおりはANA職員による手作りです

「しあわせ」「幸福の再来」の花言葉を持つすずらんの押し花と鉢植が6月6日、ANA（全日空）グループから各地の赤十字病院などに届けられました。

同社によるすずらん寄贈は昭和31年にスタートし、今年で56回目。客室乗務員や地上スタッフの皆さんが病院や社会福祉施設など全国47の赤十字施設を訪れ、入院患者さんらに押し花のしおりをプレゼントしました。

東日本大震災で被災者医療の砦となった石巻赤十字病院（宮城県）には、客室乗務員の穴戸未智さん（左）と篠原陽子さんが訪問。患者さんに「一日でも早く元気になってください」と励ましの声をかけながら押し花を手渡しました。



メッセージボードを受け取って喜ぶ岩手県大槌町の児童

東日本大震災 JRC児童が被災地へ「絆」メッセージ



大阪 2011.5

青少年赤十字（JRC）加盟校の大阪府泉南市立樽井小学校は5月中旬、東日本大震災で被災された方々を励まそうと「絆」という文字を折り紙で書いたメッセージボードを作成。日赤大阪府支部を通じて、被災地の児童へ贈りました。

メッセージボードの作成は、児童からの発案。全児童が折り紙でバラの花を作り、そのバラを合わせて「絆」の文字に仕上げました。メッセージボードを預かった大阪府支部は、岩手県山田町で活動する救護班を通じて、山田町立船越小学校と大槌町立大槌小学校の2校の児童に樽井小学校の児童の思いを届けました。

震災で大きな被害を受けた船越小学校と大槌小学校では現在、陸中海岸青少年の家（山田町）の体育館を使って授業を行うなど困難な状況が続いています。メッセージボードを作成した樽井小学校の児童たちからは「今回災害にあわれた東北地方の皆さんは苦しい生活をしていたり、しんどいかもしれないけど、自分を信じてがんばってください」という気持ちで作りました。「作っている途中で被災者の皆さんが喜んでくれるかなと思いました」などの声が寄せられています。

東日本大震災 救護班活動を パン屋さんがサポート



群馬 2011.5.23



スペイン製の石窯で焼き上げたパンが自慢です

群馬県支部は5月23日、東日本大震災での医療救護班活動への協力に対して前橋市内のパン屋「f.Dijon」に感謝状を贈りました。

地震発生直後から群馬県支部では被災地に医療救護班を派遣していますが、災害発生当初は現地での食料確保が困難な状況でした。そうした中、「f.Dijon」から菓子パン類の差し入れが支部へ行われたもの。職員からは「救護班の生活に配慮した特別メニューを作ってくれた」など感謝の声があがっています。「f.Dijon」を営む福田さんご夫妻は「うちのパンで赤十字の皆さんが元気をつけ、（結果として）被災者のお役に立てたとしたらうれしいです」と述べています。

JRC加盟校で 避難訓練 日赤介護チームも協力



福岡 2011.6.1



同校では平成21年度から豊寿園との交流事業を行っています

JRC加盟校の北九州市立松ヶ江北小学校で6月1日、地震と津波を想定した避難訓練が行われました。訓練には、日赤が運営する特別養護老人ホーム「豊寿園」の職員4人も参加。避難訓練の大切さを訴えるとともに、東日本大震災の被災地に派遣された介護チームの活動などを紹介しました。

同校は港から400メートルに位置。訓練では、裏山に設けられた避難場所への避難経路を児童全員で歩いて確認しました。参加した児童からは「日頃の訓練にまじめに取り組みたいです」「被災地の状況や赤十字の事がよく分かりました」などの感想が出されました。



1979年に建立された博士の顕彰碑の前であいさつする近衛社長

ジュノー博士没後50年 語り継ごう「ヒロシマの恩人」の功績



広島 2011.6.19

「ヒロシマの恩人」として知られる赤十字国際委員会 (ICRC) の元首席駐日代表マルセル・ジュノー博士をしのぶ「第22回ジュノー記念祭」が6月19日、広島市の平和記念公園に建立されているジュノー顕彰碑前で行われました。

ジュノー博士は、終戦間際の日本にICRCの駐日代表として着任。被爆の惨状を知った博士は、連合国総司令部 (GHQ) に向けあって広島に15トンもの医薬品を届け、自らも被爆者治療に加わりました。式典は、博士のこうした功績を後世に語り継ぐことを目的に開催されているもの。広島県医師会や日本赤十字社広島県支部などが構成する実行委員会が主催しています。

没後50年にあたる今年の式典には、市民など約300人が参加。スイスのウルス・ブーヘル特命全権駐日大使や日赤の近衛忠輝社長の来賓あいさつに続き、松井一実・広島市長が長男ブノワ・ジュノー氏、孫のマクシミリアン君へ感謝状と折鶴の記念品を手渡しました。

あいさつをしたブノワ氏は「父は亡くなるまで核兵器の規制と廃棄を訴え続けていたが、50年経ったいまも核兵器廃絶は実現されていない」と核兵器の現状に深い憂慮を示しました。



「げんきのおすそわけ」が誰かのいのちを支えています

広島県に広がる 「まひろちゃん献血」



広島 2011.6.5

「『まひろちゃん献血』は私の生きがい。まひろの生きた証です」

3歳のときに急性骨髄性白血病と診断され、広島赤十字・原爆病院での2年に及ぶ闘病生活の末、5歳でこの世を去った山元まひろちゃん。彼女の治療のためにと父親らが竹原市で始めた「まひろちゃん献血」がいま、多くの共感を集め広島県全土に広がり始めています。

大量の輸血が求められる白血病治療。まひろちゃんの父・忠良さんの野球仲間たちは、この血液を集めるため自分たちも手助けをしたいと竹原市に献血バスを呼び、市民に献血を訴えました。こうしてスタートしたのが「まひろちゃん献血」で、多くの市民からの協力を得ました。

まひろちゃんは亡くなりましたが、忠良さんはその後も献血の呼びかけを継続しています。これまで竹原市だけで7回実施され、計736人の献血が集められました。こうして活動への賛同が広がり、「まひろちゃん献血」は三次市や広島大学医学部などでも行われるようになりました。忠良さんはいま、講演活動にも力を入れ、県内の大学生らに献血の大切さを呼びかけています。

Voice & プレゼント

世界の人々のつながり実感 山村久美 (千葉県八千代市)

今回の震災で世界中の赤十字社から多くの救援金をいただいているのにびっくり。世界中のみんなが助け合い、つながっているんだなあ…と改めて実感しました。もっと多くの人に赤十字の活動を知ってもらいたいです。わが子にも (まだ1歳ですが…) 世界を見て、大きく育てて欲しいです。

プレゼント応募方法

以下の項目を明記の上、郵送・FAX・メールにてご応募ください。抽選で、日赤の2011年オフィシャルメッセージを務めるAKB48のニューアルバム「ここにいたこと」(写真)を3名様にプレゼントします。

- ① お名前 (匿名ご希望の場合はその旨もご記入ください)
- ② 郵便番号・ご住所
- ③ 電話番号
- ④ 年齢
- ⑤ 赤十字新聞7月号を手にされた場所 (例/献血ルーム)
- ⑥ 赤十字新聞へのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

● 応募先

・ 郵送 / 〒105-8521
 東京都港区芝大門1-1-3
 日本赤十字社 企画広報室
 赤十字新聞7月号プレゼント係
 ・ FAX / 03-3432-5507
 ・ メール / koho@jrc.or.jp

(件名「赤十字新聞7月号プレゼント係」)

● 応募締切 / 7月29日 (金) 必着

※ 当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



日赤のCMソング「僕にできること」収録

2000人が来場 姫路赤十字病院 フェスタ



兵庫 2011.5.21



大人気だった子ども用の白衣・救護服コーナー

姫路赤十字病院は5月21日、地域により信頼され、親しまれる病院をめざした「病院フェスタ2011」を開催。救護班の活動や手術室体験など赤十字と病院を学べる21のコーナーを企画し、約2000人の来場者を迎えました。

病院創立100周年の平成20年にスタートした病院フェスタ。今年は「姫路から被災地へ、元気を、笑顔届けたい」をテーマに、東日本大震災被災地の状況や日赤の現地活動を紹介するコーナーに力を入れました。同院からは10班の救護班が岩手県釜石市と山田町へ派遣されたほか、石巻赤十字病院(宮城県)と同看護専門学校などへの支援に延べ92人の職員も派遣されました。

日本赤十字看護大学 平成23年度公開講座「いのちを育む」

本年度の公開講座のメインテーマは「いのちを育む」。いのちをどのように養い、守り発展させていくのかを受講者とともに考えていきます。

■ 日時・テーマ (第1回は6月30日に終了)

第2回 「いのちを育む—子どもの安全」
 7月29日 (金) 10時30分～11時30分
 講師＝江本リナ、川名るり (両名とも日本赤十字看護大学准教授)

第3回 「いのちを育む—災害から身を守る知恵と技」
 9月21日 (水) 13:30～15:00
 講師＝小原真理子 (日本赤十字看護大学教授)

■ 場所 日本赤十字看護大学 206会議室 (渋谷区広尾4-1-3)

■ 締切日 第2回＝7月8日 (金) 第3回＝9月2日 (金) 各定員50人

■ 申込・問合せ先 日本赤十字看護大学 公開講座係

TEL: 03-3409-0680 FAX: 03-3409-0589 http://www.redcross.ac.jp



スリランカ 北部紛争避難民支援事業 受益者主導の住宅再建

日本赤十字社はいまスリランカで、スマトラ島沖地震・津波災害(2004年12月)の際に国際社会からの支援を受けることができなかった北部紛争避難民の住宅を再建する支援(2010年11月~2011年12月)に取り組んでいます。

津波被害での支援受けられず

およそ23万人の人命が失われたスマトラ島沖地震・津波災害で、スリランカも甚大な被害を受けました。しかし、被災地の一つである北部では1983年以降、国軍と武装勢力の間で紛争が続いていたため、住民は国際社会から十分な支援を受けることができず、さらに戦闘激化によって避難生活を余儀なくされました。



事業担当者と受益者を訪問する北村駐在員(右から2人目)

この紛争による正確な被災者は公表されていませんが、国際赤十字の推定では、8万人以上が死亡し30万人以上が避難生活を強いられたとされています。

2009年5月の紛争終結後、スリランカ赤十字社の提案により、日赤の津波事業資金の一部を使ってこの紛争避難民への支援が行われることになりました。

支援は紛争避難民200世帯に建設資金(1軒約25万円)を段階的に渡して、自らが主体となって文化や生活にかなう家を再建してもらい、受益者主導型の住宅再建事業です。

現地事業にあたる北村幸美駐在員は「この方式は1軒あたりの建設コストが安いので、より多くの避難民を支援することができます。造る人が思い通りの間取りにすることも可能です」と利点を説明します。



「一日も早く家を完成させ落ち着いて暮らしたい」と待ちわびる避難民

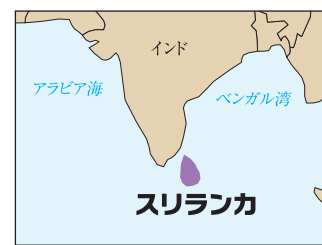
住宅は生活再建への糧

今後、支援をさらに40軒増やし、また生計手段再建のための資金も提供する予定です。「井戸水をくむポンプを買いたい」「畑を耕す鍬がほしい」など避難民の希望は膨らみます。安心して住める家が建ち、畑に多くの作物が実ることで、生活が再建される日は遠くないはずだ。

しかし支援には、紛争地だったがゆえの困難も。支援地域に入るには1週間前に国防省の許可を得る必要があります。宿泊は許されないため、1日で長距離を往復しなければなりません。大きな道沿い以外は地雷撤去が進んでいないとい

う現実もあります。

こうした困難の下での支援ですが、北村駐在員は「津波に加え、紛争などで家族を亡くしている人がほとんどですから、自分たちで家を建てるというのは大変なことです。でも家が建てば、生活再建がぐんと進みます。家が建つということは本当に大事なことです」と力を込めます。



ハイチのコレラ救援 日赤医療チームが半年間の活動を終了 感染予防に成果も、復興はこれから

2010年1月の大地震からの復興途上、コレラ感染が拡大したハイチ共和国。日本赤十字社は医療チームを派遣する支援を昨年11月から今年6月まで行ってきました。この支援事業を担当する日赤国際部の高崎紀子さんに活動の概要と成果について話を聞きました。



コレラ感染した子どもの治療にあたる日赤の医師

劣悪な衛生環境が招いた感染拡大

昨年10月に始まったコレラ感染は、急速にハイチ全土へと広がり、今年6月時点での患者数は延べ34万人、死者は5400人以上に達しました。

ハイチでは安全な水の確保が難しいことや、劣悪な衛生環境が感染の広がった要因として挙げられています。また、過去数十年にわたりコレラ感染が報告されていなかったハイチでは、コレラに対する住民の知識が低く、医療関係者も治療のノウハウを持っていませんでした。このことも拡大を招いた原因の一つと指摘されています。

日赤は昨年11月からの7カ月間で延べ6班31人の医療チームを派遣。ポルトガルの西側カルフル市にコレラ治療センター(CTC)を設置(2月中旬までで活動終了)したほか、南東ポルタピマンにコレラ治療ユニット(CTU)を開設してきました。

地域活動が重症化を防ぐ

日赤からの医療チームは、地元医師や看護師などの現地CTUスタッフにコレラ治療法などを指導。CTUでは6月中旬までの約半年の間に、1320人余りの患者を治療してきました。また、地域のクリニックを対象に、感染予防の方法や治療法講習なども進めてきました。

いったん終息に向かった感染は、雨期を迎えた5月上旬から再び増加しましたが、流行当初に比べると患者の多くは軽症でした。

コレラは経口補水塩を摂取し、脱水症状を止めることが大切です。日赤の取り組みや地元住民への予防啓発を行った英国赤十字社の活動の結果、早めに治療を

受けることの重要性や、下痢の症状が出て来た段階で経口補水塩を摂取することなど、地元住民の知識が向上し、重症化を防ぎました。

高めたいコミュニティの力

ポルタピマンでの私たちの活動は6月末で終了し、CTUの機能は地元病院内に日赤の支援で建設された下痢疾患観察施設へ引き継がれました。しかし、震災か

らの本格的な復興はまだこれから。日赤は被災地の一つレオガン市での給水復旧やトイレ設置、住民への保健衛生教育などを来年末頃まで継続していく予定です。

住民への衛生教育は、地域にボランティアを育てることで進めているのが特徴です。そうした取り組みを通じて、住民自身が地域の課題を発見していくことが、ハイチの復興に向けて大切だと考えています。

デンマーク皇太子が本社を訪問 東日本大震災被害にお見舞い

東日本大震災の被災者へのお見舞いと支援のために来日したデンマークのフレデリック皇太子殿下は、6月13日、日本赤十字社本社を訪問し、近衛忠輝社長と面談されました。デンマーク赤十字社理事を務めるフ

レデリック殿下は、発災以来続く日赤の活動をねぎらうとともに、デンマーク赤十字社が取り組んでいる募金活動について「多くの国民が震災に心を痛め、深いお見舞いの気持ちを表したものです」と語りました。

また、殿下は「PTSD(心的外傷後ストレス障害)が大きな問題になっているのでは？」と被災者のこころの問題を心配されました。

近衛社長は「震災がトラウマになっている方々のため、日赤はこころのケア・プログラムのトレーニングを受けた看護師などを派遣しています」と回答。併せて、救護班が今後も被災地での活動を続けていくことや、新しい診療所の開設計画など、日赤の取り組みを紹介しました。

殿下は翌14日、宮城県東松島市を訪問し、被災した方々をお見舞いされました。



職員が感謝の気持ちを込めて花束贈呈